

浜田城下町絵図(前期松平周防守家時代)

企画展

絵図にみる

浜田町人地の変遷

令和8年

浜田城下町絵図(後期松平周防守家時代)

2月7日(土) ▶ 5月24日(日)

浜田城資料館 開館時間 / 午前9時～午後5時

入館料 / 無料

展示室 休館日 / 月曜日・祝日の翌日

※月曜が祝日の場合は翌日休館

主催 / 浜田市教育委員会

浜田市浜田城資料館

〒697-0027 島根県浜田市殿町83-246

TEL・FAX 0855-28-7151

<https://www.city.hamada.shimane.jp>

[/www.contents/1610956469108/](https://www.contents/1610956469108/)



企画展「絵図にみる浜田町人地の変遷」

浜田市では、令和8年2月に城下町の構造を示した『浜田市近世史料集1』を刊行します。同史料集には、市指定文化財『旧浜田町役場文書(近世分)』9冊50点のうちの1点である、「浜田町中屋敷数年貢納帳(以下「年貢納帳」)」の翻刻文を掲載します。「年貢納帳」には、浜田の町人地(全15町)にある家屋敷ごとの年貢高が記載されており、この年貢高は、家屋敷の敷地面積から割り出されました。「年貢納帳」は、1650年(慶安元年)に作成され、長年使用されてきましたが、虫食いや擦れで扱いにくくなったため、1861年(文久元年)に町小頭や町浦奉行らによって改訂されました。そのため、現在残る「年貢納帳」は、1861年作成の写本ですが、内容は1650年頃の浜田の町人地を示しており、当時の浜田を知る上で大変貴重な史料です。

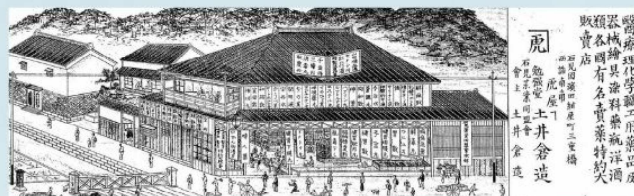
企画展「絵図にみる浜田町人地の変遷」では、『浜田市近世史料集1』の刊行を記念して、同史料集掲載の「年貢納帳」の原本や各時代に描かれた城下町絵図を展示することで、浜田町人地の変遷を辿ります。



浜田町中屋敷数年貢納帳 表紙・本文



石見国商工便覧(1894年) 浜田紺屋町佐野屋



石見国商工便覧(1894年) 浜田紺屋町虎屋

常設展1「浜田城」

1619(元和5年)、松坂藩(現在の三重県)から古田重治が浜田に転封し、5万4千石の浜田藩が成立しました。重治は、浜田城や城下町を建設し、1866年(慶応2年)まで続いた浜田藩の礎を築きました。

浜田城は、標高67mの丘陵上に築かれた平山城で、別名「亀山城」とも呼ばれました。城の北は日本海が望め、西は浜田川が流れて堀の役割を果たしました。南と東には城下町が広がっており、浜田川を境に侍屋敷と町人地に分けられました。

常設展では、浜田城や城下町の建設・構造などについて紹介するほか、浜田城を描いた絵図や実際に葺かれていた瓦を時代ごとに展示しています。



石見国亀山城

常設展2「外ノ浦」

日本遺産にも登録されている北前船寄港地・外ノ浦は、近世の浜田の城下町を支えた港の一つです。西廻り航路が整備された後の1700年代前半には、城下町に接する浜田藩最大の港としてにぎわいました。常設展では、外ノ浦から日本各地へ輸出された商品など、外ノ浦に関する資料を展示しています。

常設展3「御便殿」

御便殿は、1907年(明治40年)に東宮殿下(のちの大正天皇)が山陰行啓された際、浜田での宿泊施設として建設されました。御便殿は石見を代表する近代の建築物であり、御座所や御次の間などは当時の様子を留めています。2019年(令和元年)には内部改修を行い、浜田城資料館として活用されています。



●交通案内
JR浜田駅から徒歩20分 / JR浜田駅から周布方面行または市内循環線バス停「城山公園前」下車 / 浜田ICから国道9号線で西へ車10分◎駐車場有



浜田城資料館Instagram【公式】
hamada_castle_museum

企画展のお知らせや
資料館の活動の記録などを投稿しています。
フォロー&いいね♡お待ちしております。



浜田市浜田城資料館

〒697-0027 島根県浜田市殿町83-246

TEL・FAX/0855-28-7151

開館時間/午前9時～午後5時

入館料/無料

休館日/月曜日・祝日の翌日

※月曜日が祝日の場合は翌日休館